

巻頭言

教育は、未来を拓き、創るものでなければならぬ。

本学の前身である「日本女子高等学院」創立時の人見圓吉先生の万感迫る「開講の詞」には、その思いがにじみ出ています。第一次世界大戦で荒れた人心をどう建て直し、新しい日本を創っていくのか。人見先生ご夫妻の思いは、当然に、学校創設へと向かいました。

ご夫妻にとっては、単に一学校を建てるというものではありません。日本の新しい夜明けに、確かな道を指し示す、まさに海洋における北斗七星に比する学校として、世を照らすことが目的だったのです。その思いが「開講の詞」に込められています。

爾来、本学は脈々と伝統を受け継ぎ、いまや幼稚園から大学院までを擁する総合学園として発展してきました。その教育方針の根本理念に、「世の光となろう」に象徴される人間教育があります。

私ども初等教育学科は、教育の在り方を研究し学ぶ学科です。幼稚園から大学院まで一貫して取り組まれる人間教育を、その根本において学び、研究し、創造し、そして、自ら人間教育のできる教師を育てることを大きな目的としています。

本紀要は、このような初等教育学科の教員の研究成果の一部及び学科の動向をまとめたものです。初等教育学科の教員は、全員熱き思いをもっています。本学が特徴とする人間教育を率先して具体化する学科として、また、そのような人間教育のできる教師を養成する学科として学内外に認められるよう取り組んでいます。

と同時に、「開講の詞」に込められた人見先生の願いを踏襲し、たとえ小さな小さなものであっても、それぞれに我が国の教育界の光たらんという思いをもっています。本紀要に掲載されている各論文から、それを感じ取っていただければ幸いです。小さな光が重なり合ったり繋がり合ったりしながら、我が国の教育を明るい未来へと導く大きな光となっていくことを願っております。皆様のご批評、ご指導のほどをよろしくお願い申し上げます。

なお、本号の編集にご尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

(初等教育学科長 押谷由夫)